

2021年卒
Vol. 9

7月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2021 学生モニター調査結果 (2020年7月発行)

2021年卒業予定者の採用面接が6月1日に正式に解禁されてから1カ月が経ち、新型コロナウイルスによる混乱のなか進行してきた就職採用戦線も、大きな山を越えた。7月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は4年ぶりに8割を下回った。コロナ禍で企業の選考活動が停滞した影響が表れている。

1. 7月1日現在の内定状況

- 内定率は77.7%。前年同期実績(84.0%)を6.3ポイント下回る
- 6月1日時点(64.0%)からの伸びは13.7ポイント
- 就職先決定者は全体の57.6%。前年(67.7%)を10.1ポイント下回る。継続者は37.9%

2. 7月1日現在の就職活動量

- エントリーの平均社数は前年と同水準(29.2社)
- ES提出15.5社、筆記試験10.7社、面接試験8.4社。いずれも前年同期より増加傾向

3. 動画選考、WEB面接の受験状況

- 受験経験者は前年より増加。特に「WEB面接」が19.7%→78.5%へと劇的に伸びた
- 「WEB面接」に肯定的な学生は8割超(84.5%)。前年(59.7%)より増加

4. 就職活動継続学生の動向

- 内定の見通しが立っているのは未内定者の1割未満(9.1%)にとどまる
- 選考中企業2.2社、これから受験予定2.3社。今後のエントリー予定は2.7社
- 新たな企業を探す手段は「大学の求人票」「合同企業説明会」などが6月調査より増加

5. 就職決定企業の属性

- 就職決定業界は、文系は「情報処理・ソフトウェア」がポイント倍増で1位に。理系は「電子・電機」「情報処理・ソフトウェア」の順。
- インターンシップ参加企業の占める割合が年々増加し、今年は過半数に(53.7%)

6. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

- 「選考を重ねる中で」「セミナー参加時」が前年より減少。「インターン参加時」が増加

7. 内定取り消しに対する不安

- 就職先決定者の4人に1人(23.7%)が「内定取り消し不安」

調査概要

- 調査対象 : 2021年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,230人(文系男子389人、文系女子362人、理系男子343人、理系女子136人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2020年7月1日~5日
サンプリング : キャリタス就活2021学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は77.7%。高水準ながらも、前年実績(84.0%)を6.3ポイント下回った。7月の内定率が8割に届かなかったのは2017年卒以来4年ぶりのことだ。ただ、先月調査(6月1日時点)では前年同期比7.1ポイント減だったが、この1カ月で13.7ポイント伸びたことで前年との差は僅かに縮まった。(グラフは次ページに掲載)

調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は全体の57.6%。前年同期(67.7%)を10.1ポイント下回り、遅れが目立つ。そのぶん継続者の割合は増加し、活動継続者は「内定あり」(15.6%)、「内定なし」(24.1%)を合わせて37.9%。コロナ禍で採用活動が停滞または中断した企業が多く、本命企業の選考が残っている学生が多いのだろう。

なお、活動状況を文理別に見ると、文系において活動継続者の割合が高いのが目立つ。「内定あり」(18.5%)も含めると文系の42.6%が就職活動継続中と回答した(理系は30.5%)。

<7月1日現在の内定状況>

*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		77.7 (84.0)	71.0 (76.9)	81.2 (88.0)	79.9 (84.6)	82.4 (91.7)
内定なし		22.3 (16.0)	29.0 (23.1)	18.8 (12.0)	20.1 (15.4)	17.6 (8.3)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	74.2 (80.6)	66.7 (76.6)	70.7 (77.4)	82.1 (88.3)	82.1 (83.2)
	活動は終了したが複数内定保持	5.0 (4.2)	5.4 (5.1)	6.8 (5.7)	2.6 (2.7)	5.4 (2.1)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.7 (0.8)	0.4 (0.6)	1.0 (0.3)	1.1 (1.5)	0.0 (1.4)
	就職活動継続	20.1 (14.3)	27.5 (17.7)	21.4 (16.7)	14.2 (7.6)	12.5 (13.3)

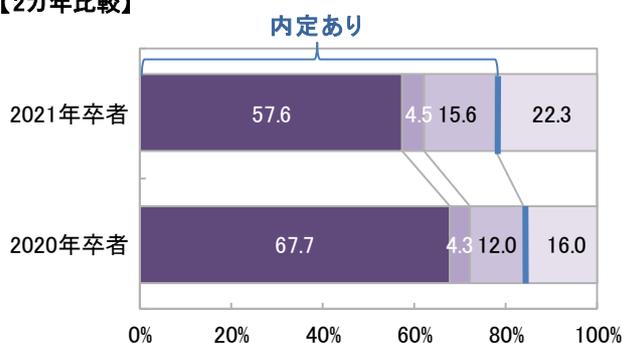
		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.0 (2.2)	2.0 (2.3)	2.1 (2.3)	2.0 (2.0)	1.9 (2.0)

※ ()内は前年(7月1日現在)の数値

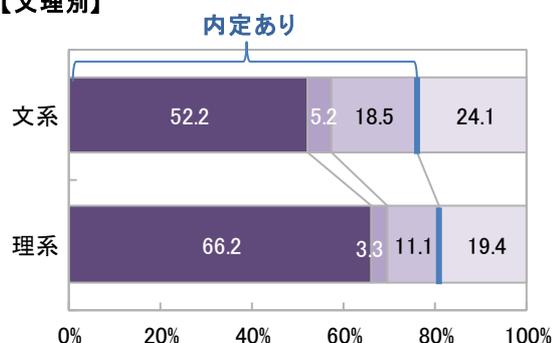
<活動状況の分布>

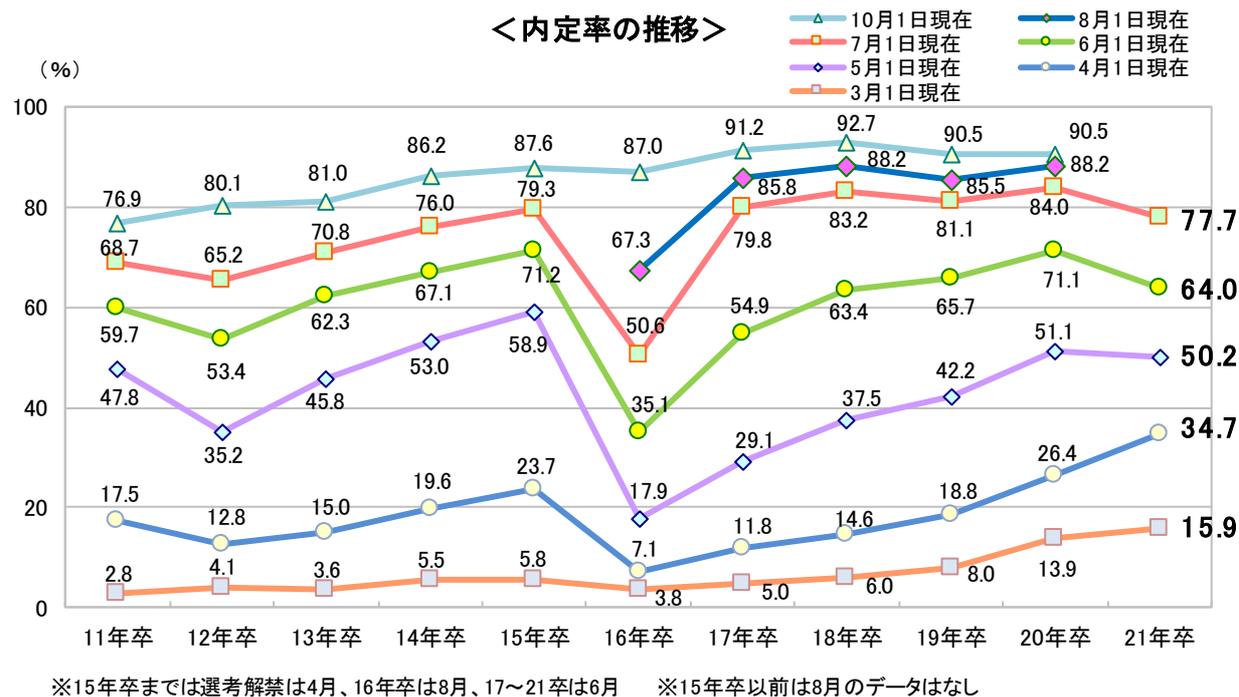
■活動終了<就職先決定> ■活動終了<就職先未決定> ■活動継続<内定あり> □活動継続<内定なし>

【2カ年比較】



【文理別】





2. 7月1日現在の就職活動量

7月1日現在の就職活動量（活動社数）を表にまとめた。

これまでの一人あたりのエントリー社数の平均は29.2社で、前年と同水準。会社説明会（会場型）への参加はオンライン化が進んだことで減少し（11.8社→8.3社）、その分WEBセミナーが大きく伸びた。ライブ視聴が8.8社、録画（オンデマンド）視聴は6.8社と、それぞれ前年実績の約2倍に増えた。

選考試験の社数についても見てみると、エントリーシート提出社数は前年より1.4社増えて15.5社。締め切りが伸びたことで提出しやすかっただけでなく、就職環境が厳しくなると見て意識的に提出社数を増やした学生もいるだろう。筆記試験、面接試験も前年より増加した。

ここ数年、志望企業を絞り込んで就職活動を進める傾向が強まってきたが、コロナ禍で歯止めがかかった格好だ。

<7月1日現在の就職活動の状況（活動社数）>

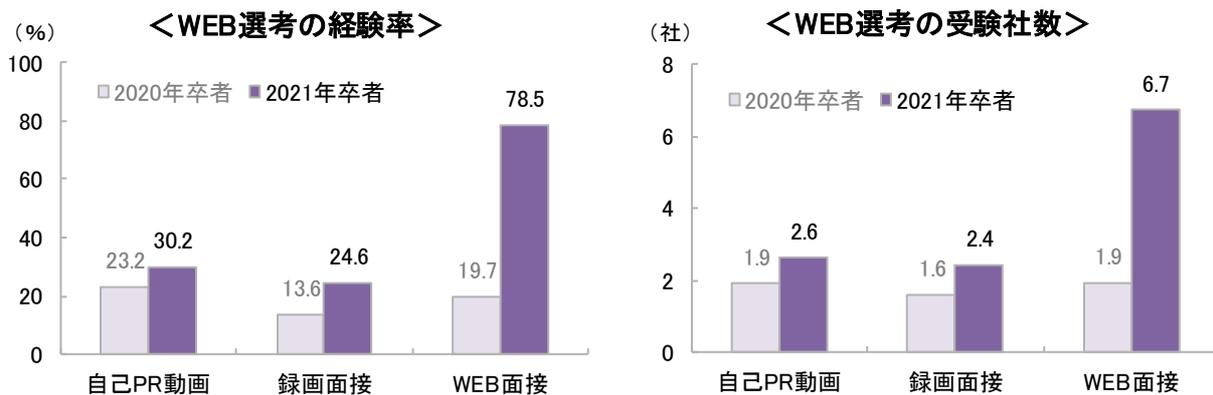
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー	29.2	29.7	33.6	33.8	21.1	24.5
会社説明会参加（会場型）	8.3	11.8	10.3	9.0	6.0	6.1
WEBセミナー（ライブ視聴）	8.8	4.3	8.7	10.2	7.9	7.3
WEBセミナー（録画視聴）	6.8	3.5	7.9	7.1	5.2	6.2
エントリーシート提出	15.5	14.1	18.9	17.2	10.2	14.8
筆記・WEB試験受験	10.7	10.2	13.1	11.1	8.2	8.9
グループディスカッション受験	2.3	3.4	2.5	2.4	2.1	1.8
面接試験受験	8.4	7.8	10.1	8.7	6.5	7.5
うち、最終面接	2.6	2.7	2.8	2.6	2.5	2.2

※それぞれ経験者を分母に平均社数を算出

3. 動画選考、WEB 面接の受験状況

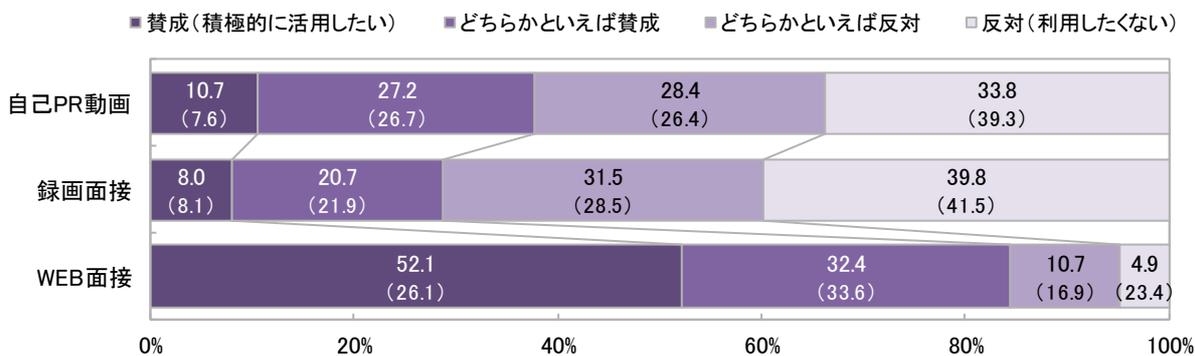
WEB 選考 (自己 PR 動画、録画面接、WEB 面接) の受験経験について尋ね、前年調査と比較した。いずれも前年の経験率を上回ったが、とりわけ「WEB 面接」が 19.7% から、約 4 倍の 78.5% へと劇的に伸びた。新型コロナの感染拡大が長引く中で、選考の要である面接についてもオンライン化に踏み切る企業が急増した様子がわかる。WEB 面接の平均受験社数は 6.7 社に上っている。

それぞれについての賛否を尋ねたところ、「録画面接」は賛成が 3 割弱 (計 28.7%)、「自己 PR 動画」は 4 割弱 (計 37.9%) にとどまるが、「WEB 面接」は 8 割を超える学生が賛成と回答 (計 84.5%)。前年 (計 59.7%) よりもさらに肯定的に捉える学生が増えたことがわかる。移動時間や交通費を節約できることに加え、緊張しないで面接に臨めるとの声も目立った。



※「自己 PR 動画」=1 分程度で自己 PR などを録画し、提出するもの。
 「録画面接」=PC やスマートフォンで、あらかじめ設定された質問にオンデマンドで答えるもの。
 「WEB 面接」=インターネット経由で実施するライブ面接。オンライン面接。双方向のもの。

<採用選考に動画やWEBを用いることへの考え>



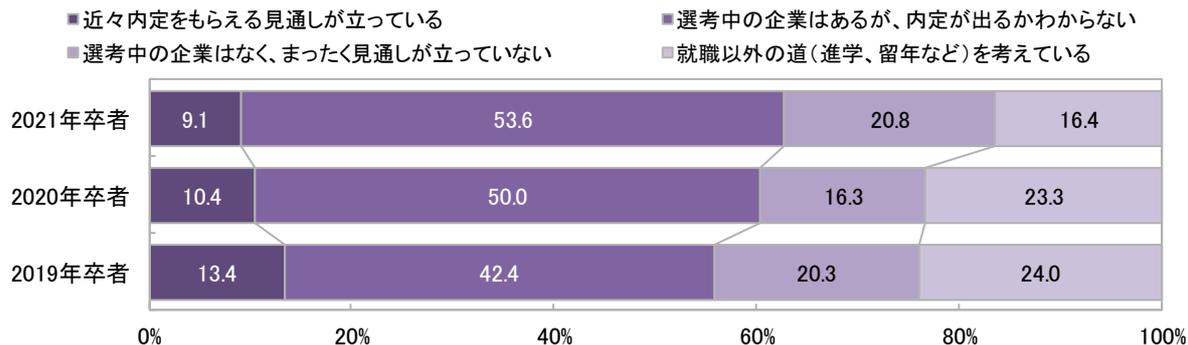
■採用選考に動画やWEBを用いることへの考え

- WEB 面接だと移動時間を気にせず受けられるので、スケジュールを組みやすい。 <文系女子>
- WEB 面接だと対面の面接より緊張しにくく、落ち着いて話せる。 <文系女子>
- 自己 PR 動画は準備に時間がかかるため利用したくない。WEB 面接は交通費の節約にもなったので良いと思うが重要度の高い最終面接などは対面でしたい。 <文系男子>
- 録画タイプは写りを気にして 10 回くらい撮り直すため面倒。一本の動画に 2~3 時間かかった。 <文系男子>
- WEB 面接は交通費の負担が少ないので、とても助かった。面接官に温度感を伝えるために、普段より明るく行った。 <理系女子>
- 実際の雰囲気や掴みにくくなるなど、弱点は色々あるだろうが、地方勢も多くの企業を受けやすくなるし、この社会情勢に対応していくためには良いことだと思う。 <理系男子>

4. 就職活動継続学生の動向

調査時点で未内定の学生に内定獲得の見通しを尋ねると、「近々内定をもらえる見通しが立っている」は1割に満たず(9.1%)、ここ3カ年で最も低い。未内定者の多くが先の見通しが立っていない状況だ。なお、「就職以外の道(進学、留年など)を考えている」という回答は16.4%と、前年調査(23.3%)から大きくポイントが下がった。就職戦線の遅れに加え、次年度以降の就職環境は一層厳しくなると見て、今年度中に就職を決めてしまいたいという意識の表れとも取れる。

<未内定者が内定を得る見通し>

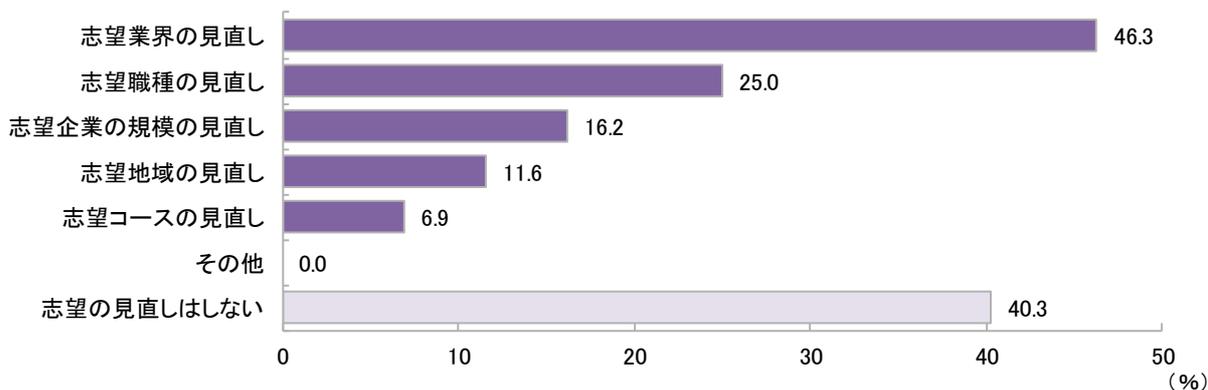


内定保持者も含め、7月1日時点で就職活動を継続している学生(モニター全体の37.9%)の、現在選考中の企業数は平均2.2社。これから受験予定の企業数2.3社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は4.5社。今後のエントリー予定社数、セミナー参加予定社数ともに前年同期を上回り、見通しが立っていない分、積極的に持ち駒を増やそうとする動きが見られる。

今後新たな企業にエントリーを予定している学生に、受験企業(持ち駒)を増やすために見直すことを尋ねると、「志望業界の見直し」が圧倒的に多く4割を超える(46.3%)。

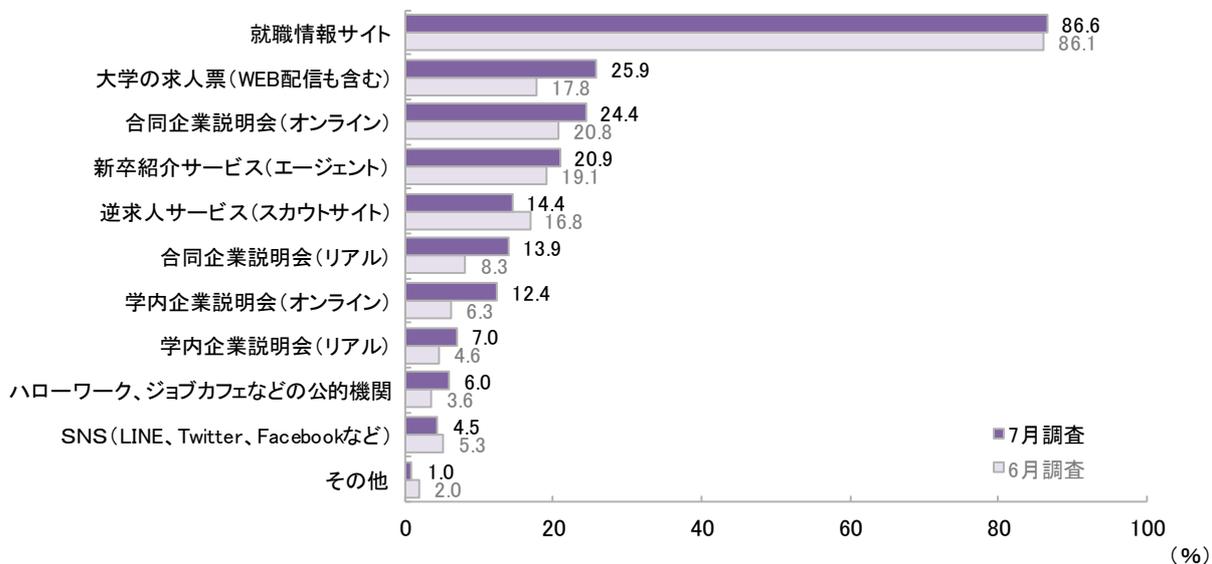
	全体	(2020年卒者)	(2019年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	2.2	2.2	1.8	2.6	2.2	1.7	1.8
これから受験予定の企業数	2.3	1.9	1.8	2.6	2.8	1.4	1.5
今後のエントリー予定社数	2.7	2.2	2.2	3.1	3.0	2.0	2.5
今後の企業セミナー参加予定社数	2.1	1.5	1.6	2.5	2.4	1.4	1.4

<持ち駒企業を増やすために見直すこと>



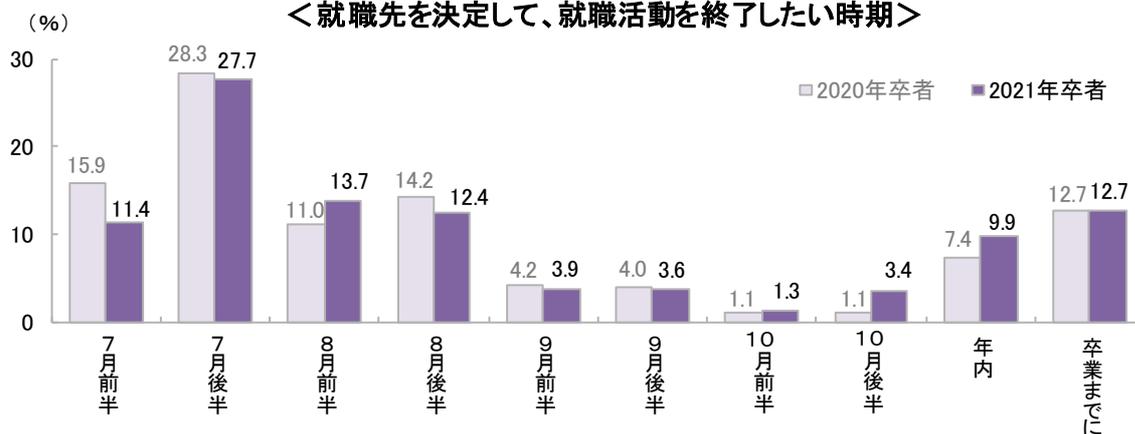
新たな企業を探す手段（ツール）について、先月調査と比較してみた。「就職情報サイト」が8割を超え圧倒的に高い点は変わらないが、続く「大学の求人票」「合同企業説明会（オンライン）」などのポイントが軒並み増えている。様々なツールを使って自分の条件に合う企業を積極的に探したい、ということだろう。

＜新たな企業を探す手段＞



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねた。前年調査と同様に「7月後半」が約3割(27.7%)で最も多いものの、全体的に後半のポイントが増加している。新型コロナウイルスの影響で思うように活動が進められない状況下で、長期戦を覚悟する者も増えてきているようだ。

＜就職先を決定して、就職活動を終了したい時期＞



■就活継続学生の声

- コロナの影響で目当ての企業が採用を中断・停止してしまい、うまく進んでいない。 <文系女子>
- 志望業界の選考がうまく進まずに、志望業界の変更を余儀なくされている。 <文系男子>
- 今年度中に終わらせないと来年度は氷河期になると思う。今年度ですらかなり厳しい状況になってきているのでできるだけ早めに終わらせたい。 <文系男子>
- 大学での研究が再開したため、時間があまりとれず、しっかりとした対応ができるか不安である。 <理系男子>
- コロナで本命の選考が遅れたため、早くに内定をいただいた会社の内定承諾期限を過ぎてしまった。 <理系女子>

5. 就職決定企業の属性

ここからは、就職先を決定して就職活動を終了した学生（モニター全体の 57.6%）のデータを見ていこう。まず、就職決定企業の業界を文理別に見てみる。文系は、昨年 2 位の「情報処理・ソフトウェア」が大幅にポイントを増やし 1 位になった（8.3%→17.3%）。それにより「銀行」は 2 位になったものの、ポイント自体は増加（10.6%→11.2%）。理系は逆に「情報処理・ソフトウェア」が 1 位から 2 位へと順位を下げたが、ポイントは前年と同水準を維持（11.9%→11.7%）。「電子・電機」が 10.8%から 12.9%へと増えて 1 位となった。文理を合わせて考えると「情報処理・ソフトウェア」に決定した学生がかなりの割合を占めていることがわかる。なお、3 位は今年も文理ともに「建設・住宅・不動産」が入った。

<文系>

2020年卒		%	2021年卒		%
1位	銀行	10.6	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	17.3
2位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	8.4	2位	銀行	11.2
3位	建設・住宅・不動産	5.8	3位	建設・住宅・不動産	7.9
4位	調査・コンサルタント	5.6	4位	情報・インターネットサービス	5.4
5位	電子・電機	5.0	5位	調査・コンサルタント	4.1
6位	運輸・倉庫	4.8	6位	保険	4.1
7位	保険	4.4	7位	人材紹介・人材派遣	3.6
	マスコミ	4.4	8位	電子・電機	3.3
9位	機械・プラントエンジニアリング	3.8	9位	運輸・倉庫	3.3
10位	商社(専門)	3.6	10位	商社(専門)	3.1
	情報・インターネットサービス	3.6		マスコミ	3.1

※上位10業界を掲載

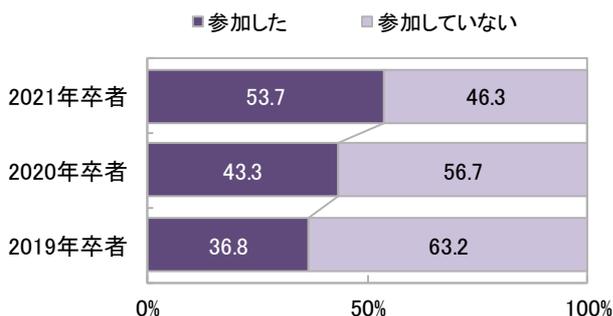
<理系>

2020年卒		%	2021年卒		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.9	1位	電子・電機	12.9
2位	電子・電機	10.8	2位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.7
3位	建設・住宅・不動産	9.9	3位	建設・住宅・不動産	11.0
4位	自動車・輸送用機器	9.1	4位	自動車・輸送用機器	7.3
5位	医薬品・医療関連・化粧品	8.0	5位	情報・インターネットサービス	6.6
6位	素材・化学	7.1	6位	医薬品・医療関連・化粧品	6.6
7位	機械・プラントエンジニアリング	4.8	7位	機械・プラントエンジニアリング	6.3
8位	調査・コンサルタント	3.4	8位	素材・化学	5.4
	運輸・倉庫	3.1	9位	水産・食品	4.4
	エネルギー	3.1	10位	通信関連	3.5
9位	水産・食品	3.1			
	精密機器・医療用機器	3.1			
	その他サービス	3.1			

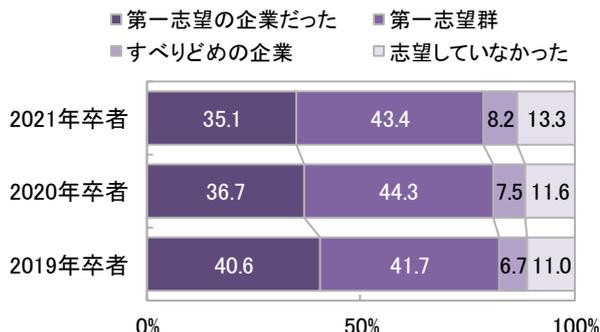
次に、就職決定企業のインターンシップ参加有無を見てみたい。インターンシップ参加企業の割合は毎年増加し、2021 卒者では 53.7%と過半数に達した。

また、就職活動開始当初の志望状況を見ると、「第一志望の企業」の割合が下がり、代わりに「すべりどめの企業」や「志望していなかった」企業が増えた。志望企業のハードルが高くなっている様子が読み取れる。

<就職決定企業のインターンシップ参加有無>



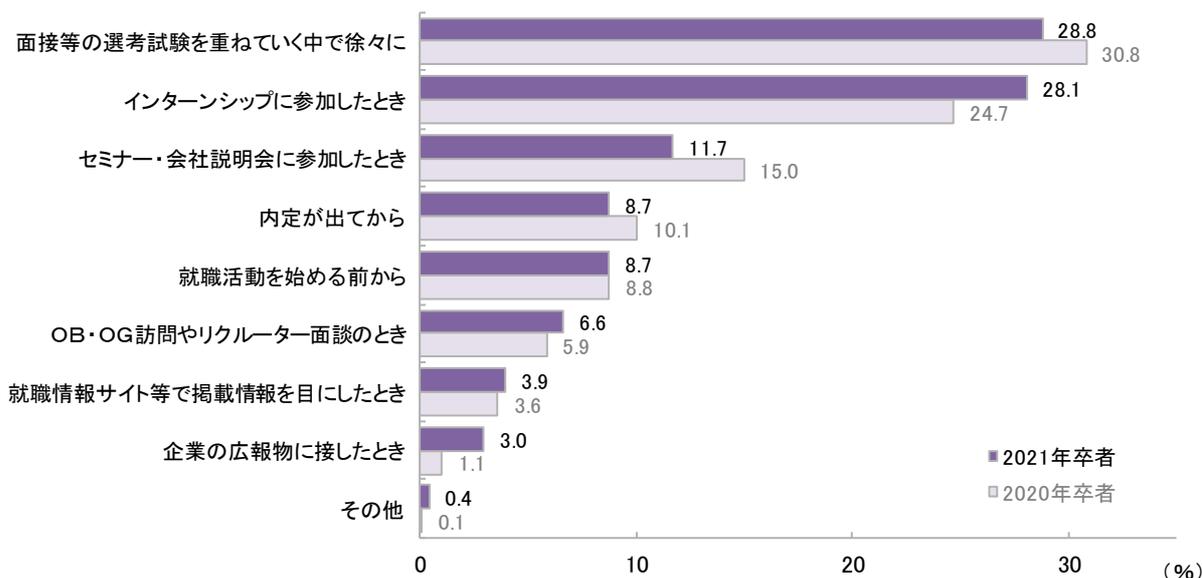
<就職決定企業の当初の志望度>



6. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

就職決定企業で働きたいと思ったタイミングを尋ねた。順位は前年と変わらないが、ポイント数に変動が見られる。1位の「面接等の選考試験を重ねていく中で徐々に」は、前年は3割を超えていたが、28.8%へと下がった。3位の「セミナー・会社説明会に参加したとき」はさらに減り幅が大きい。今年はセミナー、面接ともオンライン化が進み、「この会社で働きたい」という動機形成の場としての機能が薄らいだ可能性がある。一方で、「インターンシップに参加したとき」はポイントを伸ばし、1位とほぼ同水準(28.1%)となった。コロナの影響で3月以降に企業と出会う機会が減り、インターンシップ参加企業に就職を決める学生が増えたことが関係しているとみられる。

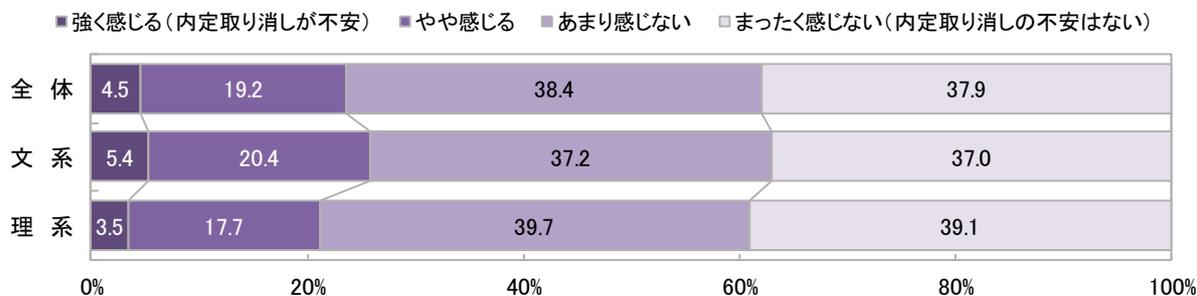
＜就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング＞



7. 内定取り消しに対する不安

コロナ禍で先行きが不透明な中、就職決定企業からの内定取り消しの不安を感じるかどうかを尋ねてみた。「強く感じる(内定取り消しが不安)」(4.5%)、「やや感じる」(19.2%)を合わせると23.7%となり、就職先決定者の4人に1人が内定取り消しを不安に思っていることがわかった。文系で不安視する学生の割合がやや多い(計25.8%)。

＜内定取り消しへの不安＞



■学生の不安の声

- 内定をもらっているにもかかわらず、安心できない。 <文系女子>
- コロナ禍で自分が働く会社がどうなっていくか不安が拭いきれない。 <理系男子>
- 入社したとしても、不景気で人件費削減なんてこともあり得るのではないかと不安がある。 <理系男子>